

さっぽろ 東本願寺

No.240
2025 5月号

行事報告	01
雲龍柳	02
今月のことば	03
お寺さんに聞いてみよう	04
門徒のおしごと	05
ひがほんっ子だより	06
法話 伊藤 秀	07,08
無盡蔵	09
連載 近代の教学者	10
すすきの探訪ツアー	11
共生	12
おしらせ	13,14

勿忘の鐘

（復興と支援の思いを繋ぐ）

3月11日、東日本大震災を偲ぶ「勿忘の鐘」が行われた。

震災が発生した午後2時46分、坂田智亮輪番の一打目に続き約20名の参加者が鐘を撞いた。その後、本堂にて正信偈の勤行が行われ、坂田輪番より法話があった。

「勿忘の鐘」は東日本大震災の被災地である仙台教区の呼びかけにより、震災が発生した翌年（2012年）から全国で行われており今年で14回目を迎える。

札幌別院ではこの取り組みに2017年から参加しております、今後も継続して復興と支援の思いを繋いでいく。



▲法話をする坂田智亮輪番



▲共に正信偈を勤行



▲鐘を撞くご門徒



▲講師の寺林彰則氏

春
彼岸会報告

3月17～20日の日程で札幌別院春季
彼岸会法要が厳修された。

講師には虻田郡豊浦町教心寺の寺林彰則氏をお迎えしてご法話をいただいた。寺林氏には自身と恩師である延塚知道氏との出遇いの経験をもとに真宗の信心を得るということについて熱心に語っていただいた。

法要期間中約100の方が参詣に訪れ、また納骨堂にも多くの御門徒がお参りに訪れた。

退職者挨拶

3月末日をもちまして札幌別院を退職いたしました。平成15年に入った頃は以前の古い別院会館で、在職中には別院会館の建て直しや、2度の御遠忌法要など貴重な経験をさせていただきました。

また、機関紙の編集を長年担当させていただき、プロの新聞記者による情報発信のノウハウや、地域イベントへの参画など、広報活動の重要性を学ばせていただきました。

22年間にわたり本院はもとより、北三条支院、円山支院、豊白支院と、たくさんの御門徒の皆様にお育ていただきしたこと、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

月輪 兼章



お知らせ

真宗大谷派札幌別院

暮らしおの朝市

東別院オープンてらス♪

2025年6月8日(日)
22日(日)

場所..札幌別院 境内

時間..両日10時~14時まで

開催日程..6月~11月の

毎月8日と第4日曜日

北海道産の野菜をはじめ、クリエーティブな品物が
出店される予定

雲龍柳 うんりゆうやなぎ

北の大地も雪解けて春がやってきた。何気なく無頓着に過ごしていた私に「さくら」の魅力を教えてくれた先輩がいる。何と言っても満開の「さくら」には、うつとりと魅了され心奪われる。因みに花言葉は「精神の美」だそうだ▼京都本山の春の法要に参詣した。京都駅周辺は歩道を歩けないほど人が溢れていた。それに比して広い境内は人まばらである。日本全国各地に世界中の人が観光旅行でわんさかやって来ている。「インバウンド」と呼ぶそうだ。ゴールデンウイークは「アウトバウンド」なのか?「一利一害」「一得一失」常に新たな問題を生んでいる▼世界幸福度報告書が発表された。上位5位にはフィンランド、デンマーク、アイスランドなどの北欧が占めている。自然を取り入れ人との交わりを大切に、生活を彩る様々な生活習慣がある。手仕事を愉しみ、古いものを大切に受け継ぎゆつたりとした時間の流れを大切にする「ヒュッゲ」な暮らしなるものがあるそうだ▼世界での日本人の活躍は大谷を始め、各界において昨今目覚ましいが、ベルリンフィルでソロ演奏をやってのけた13歳バイオリニストHIMARIさんは100年に一度の逸材と言われている。一朝一夕と言う筈はなく経験の蓄積の歴史であって、人間の底に流れている才能を見逃さず、鍛錬し彼女を開花させた人たちの情熱は、賞賛されるべきでありました。さらなる進化を期待したい

「歩みを止めて、そつと小さな手を握りながら、おまえは大きくなつたら何になる人になる

(坂)

バラバラでいっしょ

この言葉は私が京都での大学生活を送っていた頃に勤められた「蓮如上人五百回御遠忌」のテーマで、学生生活の中でよく耳にした言葉です。

先日、長女の卒業式に出席した際、担任の先生が最後のホームルームで「このクラスは個性の強い子が多く、最初は困ったけれど、みんなの違いを認めてあげようと思ったら、こんな楽しいクラスはなかった。みんな新しい教育を教えてくれてありがとう」と涙を流しながら卒業生に語りかけてくれました。

現代はとてもストレスの多い世の中です。学校や会社での人間関係、日々追われる仕事、様々なストレスを抱えながら私たちは生活しています。特に自分と他者とを比較することによる不安、不満も多くあるのではないかでしょうか。「自分はこんなに頑張っている。周りが評価してくれない」など不平不満をあげたらきりがありません。

長女は幼い頃、教育テレビの番組で流れていた「みんなちがってみんないい～♪」というフレーズをよく口ずさんでいました。これは金子みすゞの『私と小鳥と鈴と』の詩の中に「私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を速くは走れない。私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがってみんないい」と詠まれる言葉です。

とても柔らかい言葉で「バラバラでいっしょ」の精神が語られているように感じます。



青木 悟人

お寺さんに

聞いてみよう！

精進料理？

Q.

お坊さんも肉や魚を食べてもいいのですか。

A.

確かに仏教には肉食を避ける宗派もあります。これは仏教徒が守るべき戒律の一つである「不殺生戒」によるものです。そのため、肉や魚を用いない「精進料理」が生まれました。精進の習慣は一般社会にも浸透し、仏事や神事の場においては肉食を避け、精進料理を用意する習慣がありました。

しかし、戒律ではなく「ただ念佛」によってのみ救われることを説く浄土真宗では肉食を否定していました。また、日本では明治5年に政府によって他の宗派でも僧侶の肉食が自由とされました。

本来、「精進」ということに込められた願いはただ肉を食べないということではなく、他のいのちを尊重することではないでしょうか。阿弥陀如来はあらゆるいのちあるものを救うという願いを立てられました。あらゆるいのちとは人間だけではなく、動物や魚、また野菜等の植物も含まれます。

しかしながら私達は^{それぞれ}其々が大切なのちであると同時にいのちをいただかなければ生きていけません。生きるためにいのちをいただくのではなく、いのちをいただくことで私達は生かされているのです。

食事には国や文化、宗教や環境によって様々なかたちがあり、何が正しいのか定めることはできません。しかし、大切なのは自らのいのちを支えているいのちに感謝することではないでしょうか。それが「いただきます」、「ごちそうさま」という言葉になっているのだと思います。



「鬼はそと 福はうち」



鬼はそと 福はうち

札幌市中央区伏見1丁目3-11
営業時間 昼11時30分～16時
夜17時30分～22時
定休日 なし
TEL 011-520-1414
アクセス バス伏見高台停すぐ
席数 66席(禁煙)
駐車場 26台可

「鬼はそと 福はうち」である。店名は1998（平成10）年2月3日の節分に開業したことに由来し、今年で27年目を迎える。店内は和を基調にレイアウトされ、テーブル席に加え、個室が設置されている。窓の外には豊かな自然や札幌の街並みが広がり、ゆったりと落ち着く空間で食事が楽しめる。オーナーの奥様である田伏明香さんにおすすめの料理をお聞きすると、昼は甘口・中辛・辛口を一度に味わえる「鬼はそと三種（1650円）」、夜は贅沢な味わいの「道産黒毛和牛A4肩・A5リブロース食べ比べコース（7700円）」が人気メニューだと教えて頂いた。また季節限定など多くのメニューを用意しているので、近くに寄られた際には是非味わって頂きたいとのこと。

門徒のおしごと

伏見の高台にあるグリーンとイエローのツートンカラーが目を惹くお店。ここは昼にはカレーうどんを専門に、また夜には極上すき焼きやしゃぶしゃぶを専門としている和食レストラン

ひがほんっ子だより



かじわちゃんの ゆる~い日常



第3話

子どもの日



記念キャンプを終えて

ガールスカウト北海道第1団は、2023年に発團75周年を迎えました。2024年9月には、記念キャンプ「とびだせ第1回、未来へGO！」を登別の瀧泉寺さんをお借りして行いました。



番や僧侶の皆さんのお話を聴いていましたので、宗派は異なりますが、瀧泉寺のご住職のお話もすんなりと心に入りました。

子ども達は、ランタンを作り、夜のキャンプドゥファイヤーで利用して、楽しく過ごしたり、カレーを手作りしたり等、普段できない活動をたくさんしてきました。境内にある祠のお掃除も、ひとつひとつ丁寧にやって、他宗派のことも経験し実りあるキャンプでした。

いつも、ご理解とご協力いただいております札幌別院様に、深く感謝いたします。

ガールスカウト北海道第1団
団委員長 松田純子



法

言

仏・如来に遭遇



伊藤 秀（いとう しげる）
紋別郡興部町 興隆寺

本稿は2025年3月の
現来寺支院春季彼岸会・
永代経法要の法話要旨です。

本日は春のお彼岸でございますが、皆様のお寺では真宗寺院で1番大事な報恩講をはじめ、年間に様々な法要が営まれていることでしょう。これらは私達の諸先輩方が永い歴史の中でご苦労されながら、仏に出遇うことを願いとて法要という形を作つて下さいました。その形が作られて行く過程には様々な縁（条件）があつて今の形になつた訳であります。

仏教には「因縁」とか「縁起」という言葉があります。これは「因縁生起」とも呼ばれ、因と縁が結びついて物事が生じる法則を述べたものです。このことこそがお釈迦さまが覚られた内容です。

皆様、仏さまにお参りされる時、仏教徒のたしなみとして、数珠を掛けられて合掌されますよね。数珠は元々菩提樹の実を繋げたものです。菩提樹はお釈迦さまがお覺りになられた所で生えていた木であり、数珠を持つということはお釈迦さまのお覺りを頂くという意味があります。

また数珠の珠の数は元々108つでこれは煩惱の数由来し、私たちが沢山の煩惱を持つていることも意味します。煩惱とは身を煩わし心を悩ませるものであり、私たちはいつもその煩惱を抱えながら生活しています。仏さまの前で数珠を手に掛け、お参りすることは単にお参りのみならず、自らを悩ませたり苦しめたりしている原因は一体何なのかということを仏の教えから聞くことでもあります。

縁起（法則）に良いも悪いもない

以前、私があるお寺で法話している際に数珠の紐が

切れてしまったことがありました。皆さん一生懸命に珠を拾つて下さったのですが、一人のご婦人が「縁起が悪いな」と言つていました。しかし、紐が切れるという出来事には切れる縁（条件）があつたにすぎません。それが物事の事実です。そのこと 자체に良いも悪いも無いのですが、私たちは数珠の紐が切れたら悪いことが起こるのではないか、誰か死ぬのではないかということを仏の教えから聞くことでもあります。

そのように私たちは原因と条件が合わさつて物事が起きるというお釈迦様の覚りを聞きながらも、事実に立つことなく自分の都合で判断したり、関係ないものを付けたりして、いよいよ迷っていきます。

皆様、仏さまや如来の反対語をご存じですか。それは「思い込み」だと言われます。また、松本梶丸とい

う先生が「如来の世界に触れるというのは何も難しい事ではない。人間としての愚かさや身勝手さ、そういうものを忘れている私というものを気づかせ、目覚ましてくれるはたらきが如来さまなのです」という言葉を残して下さっています。

私たちは、自分の思い込みや身勝手さ、愚かさをとくらみで抱えながら生きておりながらも、本当にご縁の中で賜った凄いいのちの事実を忘れてています。「私の命」とはいいますが、見えないようなご縁が繋がつて、今の私の身であるいのちを生きているのです。誰にも代わることができない大事な人生です。なのに、私たちは自分の考えだけではそのことに気づくことができません。

だからこそ「因縁生起」という仏の教えに出遇うことで、はじめて様々なものにお世話になつてることの「ありがとうございます」や、それを知らなかつた「ごめんなさい・お陰様」という言葉が日暮しの中で出てくるのではないかでしょうか。そういう意味では仏教は何か一生懸命に物事を覚えるとか知識を増やすことではないと思います。自分が今生きているということに深く関わる教えであり、仏さまとはそのことに目覚めさせて救おうとする「はたらき」なのです。

浄土を真の宗とする

仏様は自分身勝手に生きて造り出す世界を「穢土」と言います。穢れた土(世界)です。この反対は「淨土」という世界です。私たちの宗旨は浄土真宗で浄土を眞の宗とするなどを大切にします。しかし私たちは自分の思いをどこまでも眞の宗として生きているのではないかでしようか。その私たちに仏様から常にそのことに気づいて欲しいと願い、はたらきかけられている言葉が南無阿弥陀仏なのです。

そして願うべき世界として表現される浄土。その浄土を眞の宗とするということは、私たちの勘違いや思い込みを打ち破るはたらきを眞の宗とすることであり、そのことを煩惱の生活の中にあっても私を中心には据えて生きるという事です。それが実は親鸞聖人の浄土真宗という宣言だったのだだと思います。

親鸞聖人は「如來大悲の恩徳」と言われますが、大悲というのは仏さまのお心を差します。私たちのこの身が本当の自分のいのちを生きていることの凄さとはないでしようか。そういう意味では仏教は何か一生懸命に物事を覚えるとか知識を増やすことではないと思います。自分が今生きているということに深く関わる教えであり、仏さまとはそのことに目覚めさせて救おうとする「はたらき」なのです。

無盡藏

祟敬区だより

過疎化する町の希望の光 道の駅

（南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねて）（うく）

今回は今年、4月下旬にオープンしたばかりの古平町道の駅について紹介をさせて頂きたい。「道の駅ふるびらたらこミュージアム」が2025年初頭に国土交通省より正式に登録許可された。私たちが住む北海道では129番目の道の駅の誕生である。

そのコンセプトはズバリ、古平町の特産品であるタラコを用いて古平町を道内外にアピールすること。また、昨今の外国人観光客に対し、「後志の小樽、ニセコ方面だけでなく積丹半島にも広く来てもらえるようアピールする願いも込められている。

これまでの我が町では、町民曰く「素通りする町ふるびら」という諱めの気持ちを口にする方が多くいて、「どうせ長続きしない」「積丹観光のついでに寄つてくれれば御の字」など中々覇気のある声が聞こえない。

町としてもこれまで観光業に力を入れてきたが、鳴かず飛ばずで継続的に続く事業が見いだせなかつた。今回、数年をかけて古平町役場廻舍改築工事の一環として施設の建て替え、旧役場廻舍移転により空いた土地を有効活用し、道の駅の設立を目指した。道の駅が許可となつたが、役場職員・町民だけではどうしてもアイデア不足が否めず、多くの道内外の道の駅を支援し、実績のある観光コンサルティング会社にお手伝い頂き、古平町のタラコの歴史、加工技術を「見て、触れて、食す」を合言葉にミュージアム形式（博物館）の道の駅というコンセプトが決定した。

思えば、私が古平町に身を据えた年にタラコ加工組合が経営破綻し、タラコ加工業者数社の倒産、それに伴う町内就業人口の一割が失業するという出来事が思い出された。事業を起こし、継続発展することは簡単な事ではないが、このまま消滅可能性自治体のままではよいのか。いよいよ町の経済と存続が試される戦いが始まる。

北第3組

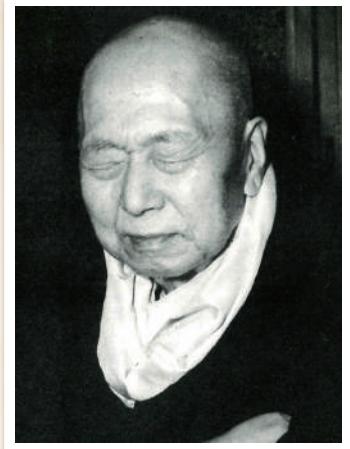
寶海寺 照山大暉



連載企画「前に生まれん者～近代の教学者たち～」

稀代の念佛總長 あけがらす はや 暁鳥 敏

暁鳥敏は明治から昭和期にかけて活躍した真宗大谷派の僧侶である。学生時代より、詩人、俳人として高く評価された敏は、その文学的センスを活かした説教と、後年には宗務總長として危機的な宗務財政を回復させた功績から「念佛總長」と愛称された。



暁鳥敏(明達寺より提供)

『歎異抄』との出遇い

1896(明治29)年、真宗大学に入学した敏は、20歳の頃に『歎異抄』と出遇う。この書に感銘を受け、後述する『精神界』において「『歎異抄』を読む」と題する記事を8年間で55回に渡り連載し、蓮如以降禁書扱いであった『歎異抄』を世に広めた。この連載を収録した『歎異抄講話』は現在も我々の教本として親しまれている。

浩々洞と『精神界』

1899(明治32)年、清沢満之を中心とし、佐々木月樵、多田鼎と共に学寮「^{こうこうどう}浩々洞」を開設し共同生活を始めた。満之を慕い集ったこの3人は「浩々洞三羽鳥」と称され、1901(明治34)年には大衆に向けた仏教雑誌『精神界』の刊行を発案し、編集に携わるようになる。

異安心の誹り

翌々年には、師と仰ぐ清沢満之の還淨に伴い浩々洞の代表を受け継ぐこととなる。以来、12年に渡って代表を務めたが、緻密な論理よりも情熱的に大衆の心へ訴える迫力が売りであった敏に対し、保守派からは「異安心」と誹りを受けることもあった。

戦時教学

また、暁鳥敏を語る上で避けて通れないのが、戦時教学の問題である。諸外国への旅行、講演を経験した敏は次第に日本精神を提唱するようになり、真宗大谷派の戦争協力に先陣を切って加担していった。これは現在にまで課題として残る大きな問題であることを申さねばならない。

弟子として

晩年には自坊の明達寺において、師である清沢満之の像と、脇侍として合掌する自身の像を安置した臘扇堂を建立し、最後まで弟子としての生涯を全うした。課題も多く残したが、満之だけでは不可能だった近代真宗の大衆浸透が、敏によって可能になったのである。

敏が興した「同朋生活運動」という本廟奉仕の活動は、今尚、本廟奉仕団として受け継がれ、真宗門徒の間法生活に根差している。

暁鳥 敏 (1877~1954)

石川県石川郡出城村字北安田（現・石川県白山市北安田）出身
真宗大谷派明達寺の長男として誕生
真宗大谷派（本山・東本願寺）の僧侶、宗教家、詩人、俳人
院号法名は「香草院釋彰敏」
愛称は念佛總長

十億の人に十億の母あるも
わがははにまさる母ありなんや
(母親が亡くなつた時に詠まれた詩である)

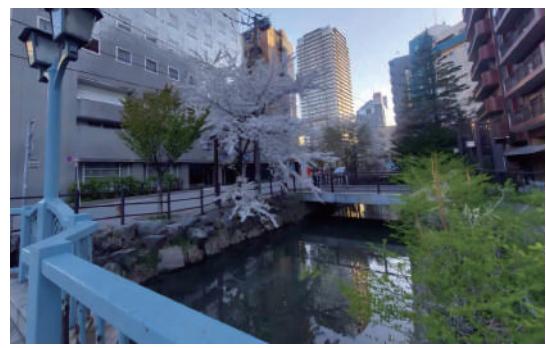
暁鳥敏が詠んだ有名な詩



すすきの探訪ツアーアイ

この季節となると、鴨々川沿いは見事な桜並木となるので、薄野に足を運ぶ機会があったら是非立ち寄ってみて頂きたい。駅前通りにかかる藻山橋から川伝に東へ向かうと園生橋がある。この辺りは、桜が散る頃になると水面に花筏が浮かんでいて、より風情がある。

現在、園生橋の北側はジャスマックプラザホテルとなっているが、昭和の中頃には染物屋があった。店の名前は「橋屋」といい、明治時代に石川県から北海道へ渡り染物業を営みだしてから、少なくとも3代は続いていたようだ。



鴨々川沿いには他にも数軒染物屋があり、薄野で働く女性たちは着物を作る時に最初は淡い色を選び、徐々に濃い色に染め直していき着古していくそうだ。

そして、巷ではこの川で染めた着物を鴨々染めといっていたとか。

今では水門で流量調整されており川の流れも緩やかだが、染物屋があった時代は川幅もそれなりにあり、どうかすると子供が流されるようなこともあったという。

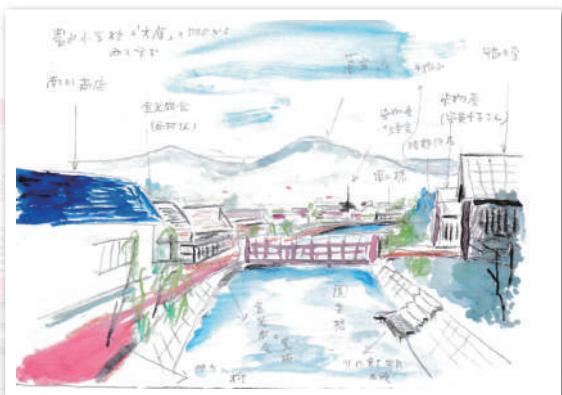
嘶は橋屋に戻るが、この店の店主はとても働き者で、鴨々川の畔には、いつも染物を洗い流す店主の姿があった。彼は藍色に染まった親指で口の端をクイッと撫でるのが癖だったとかで、唇の右側が青く染まっていたと言われている。

橋屋には五人の子供があり、みな器量良しとして評判だった。中でも三番目の女の子と末の妹がことさら別嬪さんで、姉の郁子は姿美千子という名で女優となり、大映の映画の作品に数多く出演。末っ子の和子も、姉を追うように女優としてデビューし、大ヒット映画「嵐を呼ぶ男」などに出演したのであった。

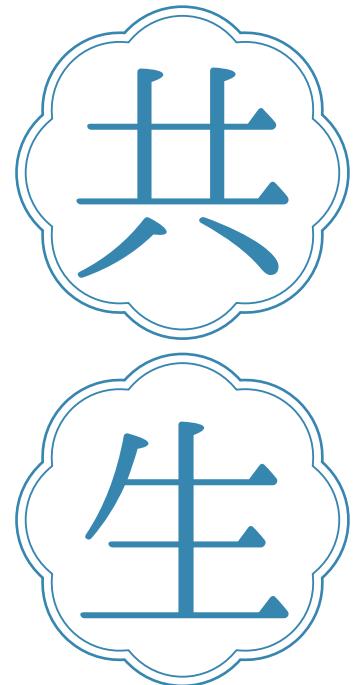
この美しい姉妹も、鴨々川添いの桜並木を眺めていたのだろうか。散策をするなら、着物で漫歩きで粋にきめたいものだ。



著 / 民衆史研究家 石川圭子



アイヌ民族文化財団
理事長 常本 照樹



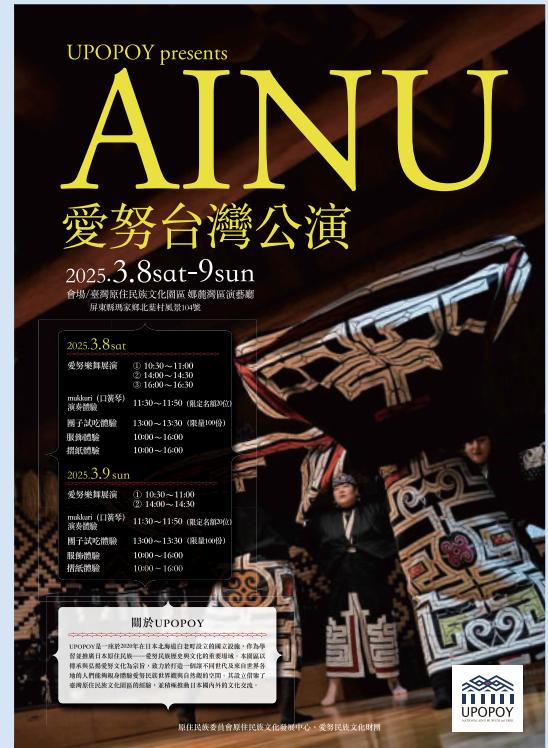
ウポポイは原則として毎週月曜日にお休みをいただいているが、年に一度、2月か3月に約10日間の休園期間を設けています。施設のメンテナンスを集中的に行うためです。

しかし、職員はお休みではありません。新しいプログラムの練習や博物館展示の入れ替えなど、通常の営業中にはできない作業をこの期間に行います。また、踊り手や体験プログラムの担当者がチームを組んでウポポイの外に出かけ、アイヌ文化を披露するのも、このときでなければなかなかできないことです。

今年は、いつも体験交流ホールで古式舞踊を披露している踊り手たちがほぼ総出で、3月5日に東京・恵比寿で特別公演を行いました。あいにく東京では珍しい大雪の日でしたが、700人収容の会場が昼の部、夜の部とともに8割方埋まり、お見送りしたお客様から多くの温かいお声をいただきました。

さらに、その週末の8日と9日には、ウポポイ初の海外公演が台湾原住民族文化園区で行われました。昨年3月の文化園区によるウポポイ公演へのお礼の意味もあります（本紙昨年1月号参照）。体験交流ホールと伝統的コタン、博物館さらに事務局などの担当者17名からなる混成チームで5回の舞踊ステージと伝統的料理やムックリの体験プログラムを実施しましたが、350人収容の劇場が毎回満員、空席待ちが出るくらいの賑わいでした。

普段ウポポイでは違う場所で働いているメンバーが心を一つにしてアイヌ文化の魅力を伝える姿は素晴らしいものでした。それに加え、文化園区で働く台湾原住民の若者たちが、私たちの期待をはるかに超える熱心さでサポートしてくれたことが成功の鍵だったように思います。ここにも民族の共生の姿を見ることができました。



年間行事表 5~7月

5月		6月		7月	
1日 (木)	山鼻支院婦人会定例 13:00~ 岸田 理 (室蘭市 浄誓寺)	1日 (日)	山鼻支院婦人会定例 13:00~ 江隈 智 (京極町 廣徳寺)	1日 (火)	暁天講座 6:30~ 本堂 孤野秀存 (元大谷専修学院学院長) 山鼻支院婦人会定例 13:00~ 相河朋昭 (芦別市 光明寺)
2日 (金)	宗祖親鸞聖人御誕生法要 初参り式・花まつり 11:00~ 本堂 札幌婦人会定例 13:00~ 研修室 金石晃陽 (蘭越町 光福寺) 豊白支院婦人会定例 13:00~ 岸田 理 (室蘭市 浄誓寺)	2日 (月)	札幌婦人会定例 13:00~ 研修室 中村俊風 (茅室町 廣證寺) 豊白支院婦人会定例 13:00~ 江隈 智 (京極町 廣徳寺)	2日 (水)	暁天講座 同上 札幌婦人会定例 13:00~ 研修室 孤野秀存 (元大谷専修学院学院長) 豊白支院婦人会定例 13:00~ 相河朋昭 (芦別市 光明寺)
3日 (土)	現来寺支院婦人会定例 同上	3日 (火)	現来寺支院婦人会定例 同上	3日 (木)	暁天講座 同上 現来寺支院婦人会定例 同上
4日 (日)	北三条支院婦人会定例 同上	4日 (水)	北三条支院婦人会定例 同上	4日 (金)	北三条支院婦人会定例 同上
5日 (月)	円山支院婦人会定例 同上	5日 (木)	円山支院婦人会定例 同上	5日 (土)	円山支院婦人会定例 同上
6日 (火)	北支院婦人会定例 同上	6日 (金)	北支院婦人会定例 同上	6日 (日)	北支院婦人会定例 同上
		7日 (土)	永代経法要・門徒物故者追弔会 13:30~ 本堂		
8日 (木)	開基現如上人御命日法要 13:30~ 本堂 曲 尚之 (別院職員)	8日 (日)	同上	8日 (火)	開基現如上人御命日法要 13:30~ 本堂 渡辺 净道 (別院職員)
9日 (金)	おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員			11日(金)	おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員
12日(月)	大谷婦人会定例法座 13:00~ 本堂 中西志香 (中札内村 同朋寺)	12日(木)	大谷婦人会定例法座 13:00~ 本堂 古卿 自然 (安平町 光専寺)	12日(土)	大谷婦人会定例法座 13:00~ 本堂 武田龍太郎 (当別町 大成寺)
		13日(金)	おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員		
		14日(土)	北支院創立記念法要・ 門徒物故者追弔会 13:30~ 本堂 宮本尊文 (札幌市 顯淨寺)		
		15日(日)	同上		
17日(土)	親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞 (江別市 瑞雲寺)				
				19日(土)	親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞 (江別市 瑞雲寺)
				20日(日)	仏教講座「暮らしの中の仏教」 14:00~ 大谷ホール 中西志香 (中札内村 同朋寺)
		21日(土)	親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞 (江別市 瑞雲寺)		
23日(金)	おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員				
25日(日)	仏教講座「暮らしの中の仏教」 14:00~ 大谷ホール 中西志香 (中札内村 同朋寺)			25日(金)	おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員
27日(火)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 寺澤三郎 (士別市 教證寺)	27日(金)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 名畠 格 (下川町 名願寺)	27日(日)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 皆田法士 (札幌市 清風寺)
			おつとめ教室 15:30~ 大広間 札幌別院職員		
28日(水)	同上	28日(土)	同上	28日(月)	同上

人事異動

退職

令和7年3月31日付

寺務員
寺務員
座

松木月輪
川暮兼章
正孝俊雄
章

奉職

令和7年4月1日付

嘱託員
寺務員
座
木館寺酒金
暮山澤井浦
孝美至悠
雄穂恩真乘

無量寿の会

札幌別院にて毎月2回13時から
お寺で俳句を読んでいます
講師 荒船青嶺先生に教わります

札幌別院機関紙

令和7年5月掲載句

母訪ねカーネーションと贈る文

鳴兎小吉

嶋地優大

父よりも母に似た吾カーネーション

三浦伸子

齊藤和加

夏帯の軽さうれし夕間暮れ

置田正子

永代経法要・門徒物故者追弔会

◆日 時：6月7日(土)・8日(日)

両日13:30～

◆場 所：札幌別院本堂

◆法 話：渡辺 誉氏（三重県 西願寺）

◆講 題：「弥陀回向の法」

どなたでもお参りできます。

暁天講座

◆日 時：7月1日(火)～3日(木)

午前6:30～8:00頃まで

◆場 所：札幌別院 本堂

◆講 師：狐野 秀存氏（元 大谷専修学院学院長）

◆講 題：「念仏する法藏」

※協賛各社のご厚意により軽食を準備しております。

テレホン法話

(011)511-1313

5月 馴れ 曽我 皆達

6月前半 法事とは 小泉 伯瑞

6月前半 生命を感じて 月輪 淳裕

『つきあかり 東別院テレホン法話集』より

永代経

尊い淨財を賜りました。ここに披露申し上げます。

○永代経

【本院】

佐藤 俊兼 様 中央区
油屋 和子 様 南区

【現来寺】

武田 郁子 様 中央区
山口 笑子 様 南区

【北三条】

加藤 浩樹 様 豊平区
井向 崇 様 北区

藤村 恵子 様 白石区

松野 治 様 中央区
萩野 昌利 様 西区

団体参拝

お参りいただきありがとうございました。

4月14日 金谷地区仏教会 様
4月17日 札幌介護予防センター 様
4月18日 東北教区坊守会 様

編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」先人の言葉はよく当たるものだなと感心する。この記事を書いているのはお彼岸終盤である。昼間の気温はプラスに達するようになり、お寺の周辺は雪解けが進んでアスファルトや土が顔を出し始め、雪が残っているのは日陰や積んだ雪山の残雪ぐらいである。

ちょうど卒業式の時期とも重なる。園舎に駆け込んでいく卒園児や慣れない袴や振袖を身にまとい小学校に入っていく卒業を迎えた6年生の姿。自然風景とその中で嘗む人々の姿から春の始まりを感じている。

もう間もなくすると土の隅からは福寿草やふきのとうが顔を出すことだろう。大地には新たな芽が出て、やがて植物が色鮮やかに輝き出す。人々も多く人が新たな生活、新たな気持ちを迎える春でもある。毎年のことであるが、限られた春を存分に楽しみたいものである。この機関紙が発行されているころは満開の桜をしている頃だろうか。

（行）



<https://ohigashi-sapporo.jp>



東本願寺 札幌別院

〒064-0807 札幌市中央区南 7 条西 8 丁目 290
TEL.011-511-0502
E-mail. ohigashi@abeam.ocn.ne.jp

地下鉄南北線「すすきの」駅で下車
→市電外回り「東本願寺前」徒歩 1 分

WEBは▶
こちらから



LINEスタンプ

